

海老名災害ボランティアネットワーク 平成30年度 第8回(12月)定例会、議事録
開催日時：2018年12月6日(木)19時~21時、会場：海老名市総合福祉会館、第3娯楽室
(出席)小澤、杉下、中村、野中、野本、水本、三宅、山下、吉野、福田(議事録作成)計10名

(1)各担当より報告(松井会計が所用で出席できないため、代表が代わりに説明)

- ①一般会計 2018年11月末日の残金 223,445円(+6,711円、国民保護計画審議会参加)
(会費納入者) 個人会員23名(±0)、賛助会員12名(±0) 団体会員3団体(±0)
②特別会計 62,000円(±0) (注)±0とは前月からの増減なしの意味です。

(2)活動報告(11月定例会から12月11日まで、討論内容を含む)

- 1) 11月4日(日)10時~12時、東柏ヶ谷1・2丁目自治会の防災訓練(講話中心)の支援
会場：柏ヶ谷コミセン、【展示と説明】食糧と水の備蓄、災害時トイレの活用、出席：水本、三宅
2) 11月9日(金)13時~14時、海老名市ボラ連定例会、会場：福祉会館、出席：水本、福田
ボラ連加盟団体から11月24日体験型講座の出席予定2名、12月8日ふれあい交流会の件
2019年2月5日(火)10時~12時、ボラ連会員研修会、「防災講演会」として実施予定
3) 11月10日(土)11時~12時、上今泉コミセン祭り実行委員会：出席：福田、松井
会場：上今泉コミュニティセンター1階、当日(12月2日)に向けた打ち合わせに出席。

- 4) 11月18日(日)9時集合~14時頃、サンパルク650自治会主催、自主防災訓練の支援
【体験型訓練】食糧備蓄・災害食体験、水運び体験、災害時トイレの活用体験、家具類の固定方法とガラス飛散防止対策、通電火災防止対策と停電時灯りの確保、階段避難車訓練、シェイクアウト計7課目
自治会役員の予備講習会：11月17日(土)19時~21時、会場：管理棟、出席：福田、山下
11月18日(日)9時~13時30分災ボラ出席者：福田、三宅、山下(防災指導員)

●自治会としての反省(板谷自治会長)：①参加者が昨年比で減少(17年50数名、18年30数名)、
②自治会で購入した「階段避難車」訓練に時間が掛かり、他の訓練との時間的なバランスが崩れた。
③起震車を呼んだが、そのことが十分に住民に伝わっておらず、参加者の増加につながらなかった。
【災ボラの討論】階段避難車は、下り専用で足の方から降りていくもので、一人で操作可能となっている。階段の踊り場でカーブする場合、一定の広さが必要となる。訓練で乗った人の話では、階段車に寝た状態で足の方から降りていくのだが、「怖い」と感じたという声もあった。「階段避難車」について、価格は1台約20万円で、半額(約10万円)は海老名市からの補助金(防災関係備品・物資に対する補助制度)を利用して購入したという。

- 5) 11月19日(月)9時~15時、「ネットワークだより」33号の印刷、配送準備作業
会場：総合福祉会館で印刷(5,500枚、印刷代金11,190円)、自治会単位に袋詰め⇒市役所に配置。
出席：小澤、中村、野本、水本、三宅、石橋、福田、計7名、皆さんの協力で15時頃に終了出来た。

- 6) 11月21日(水)18時30分~20時：「海老名市防災セミナー」(大和法人会主催)
会場：海老名市役所401会議室、参加した市民(約80名)
講師：安宅(危機管理課危機管理係長)と福田(海老名災ボラ代表)が防災講演を行った。講演の軸は安宅氏で、テーマは「避難」、福田のテーマは「建物(室内)の安全対策：家具等の固定とガラス飛散防止、水と食糧などの備蓄(ローリングストック)であった。

このセミナーに出席した災ボラ会員4名の協力で講演開始前30分間ではあったが、食糧の備蓄、災

害時トイレ対策、家具転倒防止などの展示・説明を行なった。また、会場で11月24日体験型講座のビラを配布し、これにより3名の市民が11月24日の体験型講座（災ボラ主催）に参加した。

大和法人会によれば、防災セミナーは海老名市、座間市、綾瀬市の3市で実施した（大和災ボラとは調整がつかず防災セミナーは実施できなかったという）。「海老名市では自治会の回覧があり、自治会役員の出席も20名近くあり、質問も多く出され、3市で最大の参加者数であった」と法人会の担当者からお礼を言われた。さらに「事前に謝金の話はしなかったが、座間と綾瀬の災害ボラにそれぞれ3万円の謝金を出しているのを受け取って欲しい」との連絡が入った。危機管理課に問い合わせたところ、「市職員は業務の関連での講演で謝金を受け取ることはできない。海老名災ボラが受け取ってよいのではないか」という話があった。それで、12月3日に大和法人会に行き、「海老名災ボラに対する謝金3万円」を受け取った。

【討論】海老名災ボラ主催の11月24日の体験型講座では市民の受講者10名と少なかったが、大和法人会主催の「防災セミナー」では「何故、参加者が80名と多かったのか」という質問が出された。これに関して討論したが、時間の関係もあり、不十分なままに討論を終えた。出された意見は下記の通り。

- ①大和法人会海老名支部が組織的な動員をしたからではないか。
- ②海老名市の全自治会に回覧出来たことも大きい影響を与えたのではないか。
- ③参加者募集チラシの内容が効果的で、PR効果が大きかったからではないか。
- ④今後、海老名災ボラの事業に大和法人会（注）を巻き込む方式（共催・後援）を考えたかどうか。

（注）まず大和法人会が「どういう団体か」ということを知っておく必要がある。「法人会」パンフレットによれば、「法人会は税のオピニオンリーダーとして、企業の発展を支援し、地域の振興に寄与し、国と社会の繁栄に貢献する経営者の団体で」、「70年を超える歴史を持つ」、「税務署の管轄地域ごとに単位法人会」があり、41都道府県連合会、全国法人会総連合がある。「租税教育活動・税の啓発活動」を中心にして、さまざまな活動を展開している企業の団体（全国80万社）で、「地域の自治体等と連携しながら様々な地域貢献活動も行っている」等々が記載されている。

【追記】（定例会議事録の範囲を超えるが、私が調べ考えたことを追記するので、皆さんも考えて欲しい）

⑤ 大和法人会海老名支部の会員は500社という大きな組織で会員への積極的なPRを実施した（と聞いた）。市民への影響力を考えると、500社の会員を持つ大きな大和法人会海老名支部が主催する事業と、個人会員23名の小さな海老名災ボラが主催する事業の参加者数を比較することに無理がある。セミナーの参加者を比較するとすれば、海老名約80名、座間約30名、綾瀬も約30名（？）という参加者数を検討することの方が有意な回答が得られるかもしれない。

⑥海老名では11月21日の案内チラシを自治会に回覧できるように危機管理課が自治会連合会に取り計らうなど、大和法人会の事業を市行政が積極的に支援したことが大きいと思われる。

⑦海老名、座間、綾瀬のセミナーの内容を見ると、3市ともに災害ボランティアネットワークのリーダーが講師となっていることは同じである。しかし、座間では講師は災ボラのみであったが、海老名では、講師を危機管理課と災ボラが分担した。事前に大和法人会、危機管理課、海老名災ボラの3者による「話し合い」が実施され、また、講演内容が重複しないように危機管理課職員と災ボラの講師同士の調整も行われた。具体的な場面で危機管理課と災ボラの協力関係が良好であることも良い結果をもたらした。

⑧大和法人会という「税務知識の普及を軸にした団体」が、今年の秋に「防災・減災セミナー」を開催したことの背後に、2018年は大阪北部地震、西日本豪雨災害、北海道地震など自然災害が多発し、市民の中に「防災・減災への関心が高くなった」という状況があると思われる。

7) 11月24日(土)体験型講座：減災対応訓練 10時～12時

【主催】海老名災ボラ、【後援】海老名市社協(2名出席)、海老名市(危機管理課2名出席)

【会場】海老名市総合福祉会館、第1～第3娯楽室(1階)、災ボラ会員は9時に集合し準備。

【出席】受講者10名、災ボラ会員12名(スタッフとして参加、担当課目は下記)

【体験課目】司会(福田)、受付(野中)、1シェイクアウト訓練(中村)、2食料と水の備蓄と災害食体験(水本、館、石橋)3災害時のトイレ活用体験(三宅、小澤)、4家具類の固定方法とガラス飛散防止対策(松井、佐々木)、5通電火災防止対策(感震ブレーカー)と停電時の灯りの確保(山下、野本)

●振り返り(受講者の意見)：事前の準備：①ある程度はやっていたが、不十分な事に気がついた(ボラ連役員)、②特に何もやっていなかったの、今後、実施したい(個人)。③自然災害に関する住民の関心の向上、講座で得た知識「住民に伝える効果的な方法」は何かを模索している(自治会役員)。

【参考情報】受講者数(市民)の推移：2015年8月6日(夏休み中、4家族13名)、16年11月26日(大人9名)、17年9月24日(大人22名、グループでの参加が多かった⇒海老名コーポラス4名、扇町エリアマネジメント3名、生協3名)、18年11月24日(大人10名)。

【討論】受講者数が昨年に比べて今年が少ないのは何故か?という質問が出された。PRは「広報えびな」「タウンニュース」「募集案内チラシ」など昨年とほぼ同じであったが、受講者は減少した。「理由はよく分からない」というのが討論の状況であったと思う。それゆえ、さらに検討を深める必要がある。

【追記】(定例会議事録の範囲を超えるが、私が考えたことを追記するので、皆さんも考えて欲しい)

受講者名簿から受講者数の特徴と今後の課題を考えると、次のことが言えるのではないか。

- ①受講者が体験型講座で学んだ内容をどの程度実行したかは定かでない⇒フォロー調査の必要性
- ②体験型講座を一度受講した方は、それ以降は体験型講座を受講していない(リピーターは皆無)。
- ③体験型講座の課目別の内容は改善されている部分(日常備蓄、通電火災防止など)はあるが、基本的事項は2015年に開始以降、ほとんど変わっておらず、マンネリ化の危惧がある⇒リニューアル?
- ④体験型講座の内容の改善と同時に、事前準備(備え)の必要性を「もっとリアルに提起する」工夫が必要ではないか。さまざまな「備え」(対策・方法)を丁寧に説明したとしても、「事前の対策」をその人が実行することに直結しない。日々の生活で忙しい人が、災害対策をすぐに実行に移すには、災害の大きさを過去の事例から知ると同時に、災害に対する危機感・切迫感を引き出す必要があると思われる。

8) 11月25日(日)9時～13時、第9回「海老名農業まつり」へ出店、防災・減災のPR活動

会場：海老名グリーンセンター、テント1つ(テーブル2)、本部の来賓席の隣のテントに災ボラ。

【展示と説明】水と食糧の備蓄、災害時トイレの活用体験、【出席】佐々木、福田、松井、三宅

説明資の配布(約30枚)、備蓄の説明を聴きに来る人は高齢者と、小さなお子さんを連れた家族が多かった。トイレの説明のところでは、ビニール袋や凝固剤を既に準備している人もかなりあった。

9) 11月27日(水)13時～14時、ボラ連役員と災ボラの相談会、ボラ連役員4名+福田

2019年2月5日(火)の「防災研修会の内容」に関する相談に災ボラが招かれた。これは、神奈川県赤十字社との「救急法の基礎」という講演内容が調整がうまく行かず中止となった。危機管理課安宅氏の「避難についての講演」+災ボラ代表の「家具の固定」、「日常備蓄」、「トイレの活用」に関する講演を提案し、役員との了解を得た。危機管理課との折衝(講演内容、レジュメの印刷、非常食の支給など)も福田が依頼され、危機管理課(安宅さん)と折衝することになった。

10) 11月28日(水)14時~17時、海老名防災関係3者定例会

会場：海老名市社協事務室（市役所西棟）

【出席】社協：新倉、危機管理課：山口、川崎、災ボラ；佐々木、福田、水本

【テーマ】「ビックレスキューかながわ」訓練の振り返り⇒センターマニュアルの見直し第1回。

内容は多岐にわたるが、災害ボラセンに対す海老名災ボラの基本的な姿勢について、福田が提案し、災ボラの定例会で討論し了解を得た。詳細は「海老名防災関係3者定例会11月のまとめ」参照。（災ボラ定例会12月6日で配布したものは途中経過で、完成版は12月20日の3者定例会までにまとめる。）

【内容】2011年3月11日の東日本大震災以降、大規模な災害が発生した時に設置運営される「災害救援ボランティアセンター」は、市町村の社会福祉協議会が主軸となって設置運営し、それを災ボラも含めて様々なボランティアが協力・支援するという運営方式が主流になっている。そうした全国的な状況を踏まえて、救援ボラセンの組織と運営について、「社協が主軸であることを明確にするようなマニュアル改訂を行う」ことが重要である。（その他・詳細は、12月20日までにまとめる予定で作業中）

11) 12月1日(土)14時~15時30分、年末助けあい共同募金（海老名駅の西口と東口）

主催：海老名市社協、協力：ボラ連、加盟団体より各1名出席の要請、災ボラ：福田が出席。

共同募金の一部が市町村社協に配分され、その一部が海老名社協⇒ボラ連加盟の団体にも配分される。

12) 12月2日(日)9時半~15時30分、上今泉コミセン祭りへ出店、防災・減災のPR活動

【会場】上今泉コミセンの自転車駐輪場（屋根付き）、【参加者】約1,100名（主催者発表）

【展示と説明】水と食糧の備蓄、災害時トイレの使い方、通電火災防止（感震ブレーカー）

【災ボラの出席者】：福田、松井、星野（コミセン祭り実行委員長）

【説明資料の配布】（約30枚）、家族連れ（子ども）、高齢者（既に準備）が多かった。コミセン祭りの参加者1100人に比べると、ボラの出店場所へ立ち寄り人は少なかった。外は寒かったこともあるが、展示物（東日本大震災や大阪北部地震の被害を示すパネルの作成など）の工夫が必要と感じた。

13) 12月2日(日)10時~12時、海老名コーポラスの自主防災訓練へ参加、防災・減災のPR

【内容】災害時トイレの使い方、【参加者】112名（主催者発表）、2グループ（50人）で巡回。

【災ボラ】災害時トイレの使い方、【コーポラス】災害食（アルファ化米）、安否確認、消火訓練など

【出席】中村、野中、三宅、小澤（海老名コーポラス役員）

【説明資料の配布】50枚（上記の参加者数から考えると、60枚以上不足）

これ以降は、12月6日の災ボラ定例会の時点では「今後の予定」として提案されたものである。しかし、議事録を書きあげる時点では、既に事業が実施され、内容がより鮮明になったものもあるので、「今後の予定」ではなく、「事業報告」の一部に含めることにする。

14) 12月8日(土)10時~12時、災害図上訓練(DIG)防災マップ作り体験学習会

【主催】海老名災ボラ、【後援】海老名市社協、【会場】総合福祉会館第1~第2会議室（2階）

【講師】中村敏一（防災図上訓練指導員、海老名ボラ会員）、【参加費】無料

【定員】先着順30名（災ボラ会員も含めて）

【受講者】市民（5名）、災ボラ会員（8名：星野、野中、大野、水本、三宅、野本、松井、山本）
危機管職員（5名）、【3グループ編成】海老名市北部在住7名、南部在住者6名、危機管理課5名

【スタッフ】災ボラ2名（講師は中村、受付・司会は福田、会場設営・後片づけはスタッフで実施）。
出席者は合計20名。3グループともに受講者の活発な討論で進行できた。講師の中村氏に感謝する。

【追記】（議事録の範囲外であるが、今回の防災マップづくり体験学習に関わる資料を提供する）

《海老名災ボラが実施（または参加）した図上訓練（地震災害）について》

2012年11月24日、「防災まち歩き」海老名北部地区、海老名駅周辺を歩く、災ボラ参加者3名。
2013年2月16日、「DIG（災害図上訓練）勉強会、海老名市総合福祉会館、災ボラの参加者15名
2013年2月23～24日、災害ボランティア図上訓練、神奈川県社会福祉会館、災ボラ参加者2名
2015年1月31日、県央ブロック社協主催、災害図上訓練、市総合福祉会館、災ボラ参加者5名
2016年1月31日、県央ブロック社協主催、災害図上訓練、秦野市立本町公民館、災ボラ参加者3名
2016年12月7日、「県央都市社協主催、災害図上訓練、アミュー厚木、災ボラの参加者3名
2017年8月19日、小田原社協・県央社協の共催、災害図上訓練、小田原県合同庁舎、参加者3名
●2012～13年2月16日まで、「防災まち歩き」と「図上訓練」（地震）は海老名災ボラの独自活動として実施されたものである。

●2013年2月23日～2017年8月までの図上訓練は神奈川災ボラ（植山氏等）の指導による。

《今回2018年12月8日の災害図上訓練（地震編）の効果について、福田の意見・感想》

① 図上訓練の基本的な流れは、神奈川災ボラ理事の指導でも中村氏の指導によるものと同じであるが、中村講師の話しは地震災害の具体的な事例などもあり、具体的な地震災害の「イメージを持つこと・想像すること」が出来やすかったと思う。

② 受講者が在住する地域を軸としてグループ編成であったことも、活発な討論が出来た要因の一つである。中村氏は海老名市内で5つの地図を準備していたが、受講者の数を考慮すれば、海老名市北部地域、南部地域という大きなグループ編成にならざるを得なかったと思う。

③ 「DIGを実施の効果」⇒「災害を知る、地域を知る、人を知る」と中村氏は書いたが、「体験を重視してきた」自分が「知る」「イメージ」「考える」重要性を再認識したことに最大の成果を感じた。そのことを事業化すれば、DIGと体験型講座減災訓練を連続・一体化した形で実施する企画が有効であろう。

④ 今後、DIGを自治会・自主防災組織レベルで実施するようになってくれば、市民の防災・減災意識の向上につながると思う。また、高校生や中学生など若い人たちへの防災・減災意識の向上も視野に入れておく必要がある。それには危機管理課と災ボラのDIG実施に関する具体的な「協働・分担」が重要になる。

11月21日の大和法人会主催の防災セミナーでの協力と分担、12月8日の防災マップづくり体験学習での共催などにより、海老名災ボラと海老名市危機管理課の協働関係が海老名市での具体的な課題を通して着実に前進していると私は感じている。皆さんはどのように感じているだろうか。

15) 12月9日（日）11時～13時30分、「ふれあい交流会」

【趣旨】 障害者とその家族を中心としたクリスマスパーティーで、ボランティア団体なども含めて参加者の親睦・交流（ふれあい）の促進を図る。【会場】 オークラ・フロンティアホテル

【参加費】 2千円。参加者には「昼食」と「おみあげ」が出る。⇒「協賛企業」（6社）からの協賛品

【主催】 海老名市社協、海老名市ボランティア連絡協議会、海老名市障害者団体連合会

この3者代表による打ち合わせが行われているが、実行委員会という形式は取っていない。

参加者は、これら3団体内で募集されているが、一般市民の募集はしていない。

【予算】 海老名市社協、ボラ連、障害者団体からの分担金、参加者からの参加費（参加者が一定数集まらないと、「ふれあい交流会」は予算的に実現できなくなる。それゆえ、障害者団体連合会やボラ連加盟団体に参加者増員の要請があり、ボラ連加盟の各団体に当初の1名参加から2名参加の要請が出された。

【ボラ連参加者の役割】 ボラ連の参加者は9時に集合し、会場の設営、おみあげ品の袋詰め、ホテル入

口から会場への案内、各テーブルでの世話役などを行う。各テーブルで一緒に昼食しながら障害者及びその家族との交流を進める。「要約筆記」のボランティアは、皆さんが食事をしている間にも活動を続けていたが、そのことに深く敬意を表したい。【災ボラの出席者】水本、福田

【12月6日、定例会での討論】ボラ連に加盟したことで、この行事に参加することになった。毎年続くようなので、参加者の個人負担軽減措置を災ボラとして行うのかどうか、行うとすればどの程度の金額にするかが議論された。個人負担軽減について11月に会計2名で検討してもらったが、意見が分かれたので、12月定例会での討論課題となった。ボラ連加盟の各団体の状況を聞いたところ、①2000円全額をその団体が出している団体（個人負担0円）、②半分程度（1000円）出している団体（個人負担1000円）、③団体の費用負担はなく全額個人負担としている団体、これら3つの対応がある。

災ボラの討論では、上記①全額災ボラ負担、②半額（1000円）災ボラ負担の意見に分かれた。結論は、災ボラの参加者はボラ連の行う活動（会場設営などなど）を担う「スタッフ」として参加するのだが、昼食（和食と洋食の選択が可能）は参加者が消費する（食べる）ので、個人負担は半額（1000円）、災ボラ負担は1000円とすることを決定した。

【当日の状況】テーブル席に座った参加者130名（障害者とその家族、ボラ連加盟団体の参加者、社協などを含む）、クリスマスコンサートは楽器の生演奏、フラダンス、有馬高校ダンス部、楽しい行事。

16) 12月11日（火）10時～11時、イオン黄色いレシートキャンペーンへの協力

【出席】水本、小澤、三宅、災ボラは1月11日にもう一度協力する予定。

(3) 今後の予定及び事業内容の検討（12月14日～2019年2月下旬まで）

1) 12月14日（水）13時～、ボラ連定例会、会場：総合福祉会館（会議室）

テーマ；ふれあい交流会の振り返り、ボラ連主催の防災講演会：2019年2月5日（火）10時～12時など、【出席予定】福田、水本

2) 12月20日（木）14時～17時、海老名防災3者定例会

テーマ；海老名災害救援ボランティアセンター・マニュアルの見直し

【出席予定】佐々木、福田、水本

3) 2019年1月19日（土）10時～12時、海老名市防災講演会、会場：市役所401会議室

テーマ；「被災地の現実を寸劇の形で知ろう！女性の視点で！講師：吉田洋子氏

各団体から出席予定者数を12月14（金）までに危機管理課、野地、川崎まで連絡する。

4) 2019年2月17日、24日災害救援ボランティアセンターコーディネーター養成講座

社協が作成したコーディネーター養成講座のチラシを参照（メーリングリストで配信した）

(4) その他 時間が無くなり、報告もできなかったので、来年1月10日の定例会で再提案する。

1) 「海老名災ボラ会員名簿」の作成、アンケートの実施（12月中旬～翌年1月）

- ・名簿作成の目的：会員間の交流促進、緊急連絡網の作成
- ・会員アンケートの範囲：個人会員（23名）、賛助会員（13名）、団体会員（3団体）？
- ・プライバシー問題があるので、名簿は会員に限定して開示 → 目的外利用の禁止
- ・名簿掲載の範囲は各人の自由判断に任せる。（氏名、住所、電話連絡先、メールアドレス、生年月日）

次回：2019年1月10日（木）19時～21時、総合福祉会館、第3 娯楽室（1階）

次々回：2019年2月7日（木）19時～21時、総合福祉会館（未定）